



本件照会先

帝国データバンク
鹿児島支店 日比生 秀一(支店長)099-223-8208
info.kagoshima@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/05/09

鹿児島県内企業 社長の平均年齢は61.0歳、 過去最高を更新

社長交代率は3%台で低迷、
高齢化に歯止めかからず

鹿児島県・「社長年齢」分析調査(2024年)

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

鹿児島県内企業の社長の平均年齢は、2024年時点で61.0歳だった。社長の交代率が3%台で低迷するなかで、25年連続で過去最高を更新した。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」が到来しており、「経営者の病気・死亡」による倒産も増加している。円滑な事業承継に向けて、早期に準備を進める必要性が一層高まっている。

本調査では、企業概要ファイル「COSMOS2」(約148万社収録)から2024年12月時点における企業の社長データ(個人、非営利、公益法人等除く)を抽出し、集計・分析した

社長年齢は 61.0 歳、過去最高を更新

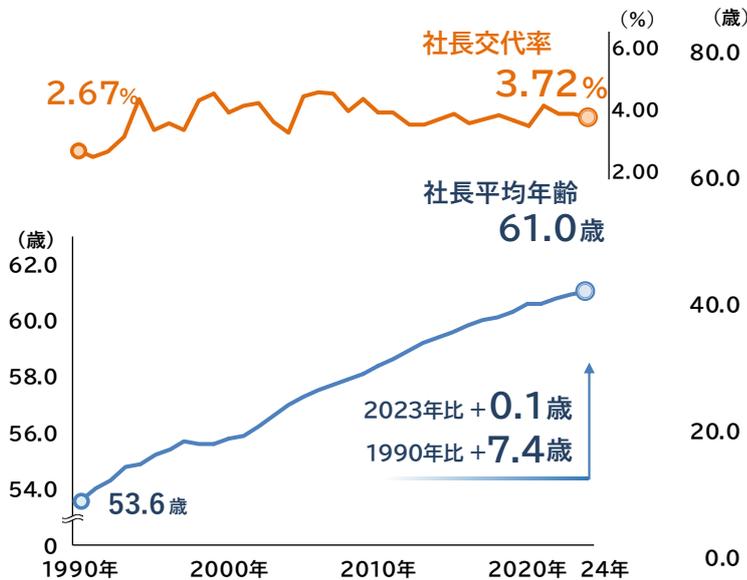
鹿児島県の社長平均年齢は、2024 年時点で前年を 0.1 歳上回る 61.0 歳となった。

統計として遡れる 1990 年から徐々に上昇が続いており、25 年連続で過去最高を更新。社長交代率は 3.72% となり、前年より 0.13 ポイント低下した。

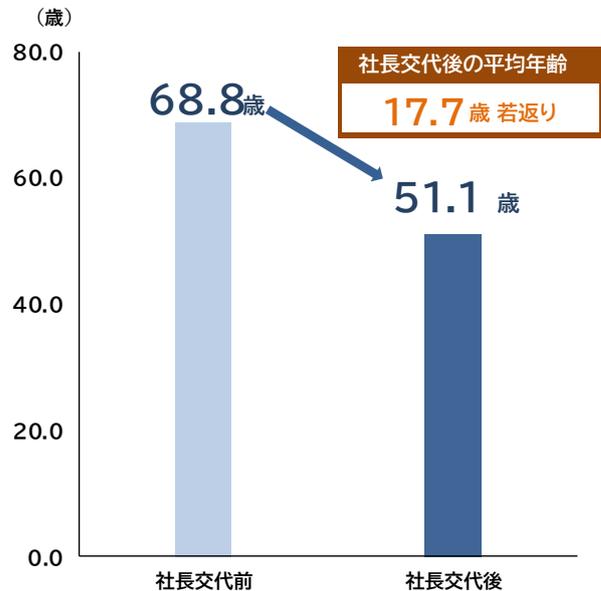
社長が交代する際の年齢は平均 68.8 歳となり、前年(69.8 歳)から 1.0 歳若返った。また、社長交代後の新社長の年齢は 51.1 歳で、社長交代によって平均 17.7 歳若返ったものの、前年(50.0 歳)と比較すると 1.1 歳の上昇となった。

社長平均年齢の推移

社長の平均年齢・社長交代率の推移



社長交代前後の平均年齢変化



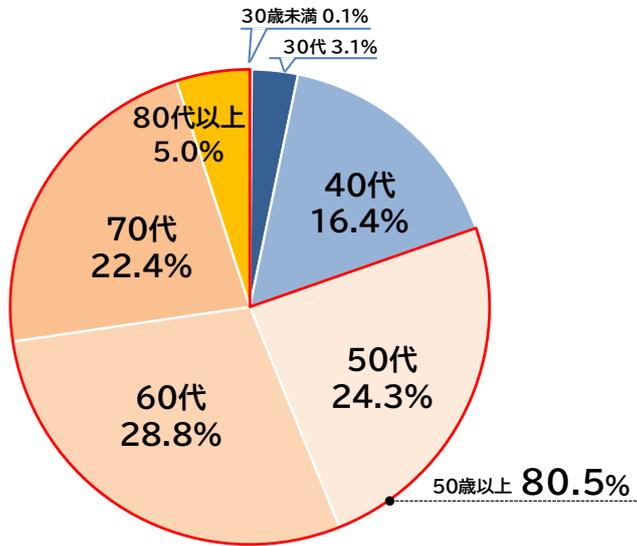
年代別構成比、「50 歳以上」は年々上昇し 80.5%に

2024 年時点における社長の年代別構成比をみると、「50 歳以上」が 80.5%と初の 8 割台となった。2024 年はいわゆる「団塊ジュニア」世代の多くが 50 歳を超える時期であり、3 年連続で上昇が続いた。また、「60 歳以上」で区分しても 56.2%と半数を超えている。

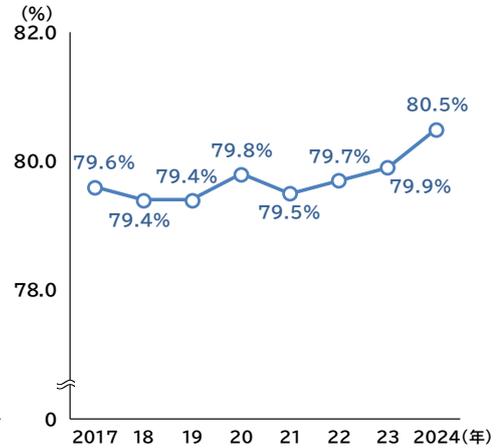
一方で、「30 歳未満」は 0.1%、「30 代」は 3.1%にとどまり、30 代以下の社長は全社長の約 3%に過ぎない。また、「70 代以上」、「80 代以上」が増加していることをみると、事業が承継されないまま、70 代、80 代以上となっても経営者にとどまらざるを得ない企業が増加している状況もうかがえる。

社長の年齢区分(年代別)

社長の年代別構成比



社長が「50歳以上」の割合



社長年齢 年代別比率の推移

年	年代別比率 (%)							50歳以上
	30歳未満	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
22	0.1	3.7	16.5	23.4	30.6	21.2	4.5	
23	0.1	3.5	16.5	24.0	29.3	22.1	4.5	
2024	0.1	3.1	16.4	24.3	28.8	22.4	5.0	80.5

業種別では「不動産」がトップ、「その他」除く全てで60歳超え

社長の平均年齢を業種別で見ると、「不動産」が64.5歳でトップ。次いで「小売」(61.5歳)、「運輸・通信」(61.3歳)、「卸売」(61.1歳)と続き、唯一「その他」が60歳を下回った。「その他」を除く全ての業種で60歳を超える結果となり、経営者の高齢化の進行が顕著に現れている。

社長平均年齢・業種別(年推移)

	平均年齢 (歳)							対95年比
	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2024	
全体	55.2	55.8	57.3	58.4	59.6	60.6	61.0	+5.8
建設	53.6	54.2	56.0	57.2	58.7	60.3	60.7	+7.1
製造	56.5	57.3	58.6	59.6	60.2	60.9	61.0	+4.5
卸売	55.7	56.8	58.0	59.0	59.9	60.8	61.1	+5.4
小売	55.4	56.1	58.1	59.4	60.6	61.0	61.5	+6.1
運輸・通信	57.4	57.1	57.9	57.5	58.9	59.7	61.3	+3.9
サービス	54.5	56.2	57.4	58.4	59.7	60.2	60.5	+6.0
不動産	56.0	59.1	60.7	60.4	62.9	64.2	64.5	+8.5
その他	55.9	57.0	58.0	58.9	58.3	58.8	59.2	+3.3

都道府県別、秋田県と岩手県が 62.6 歳でトップ 「鹿児島県」は全国 21 位、九州では 2 位

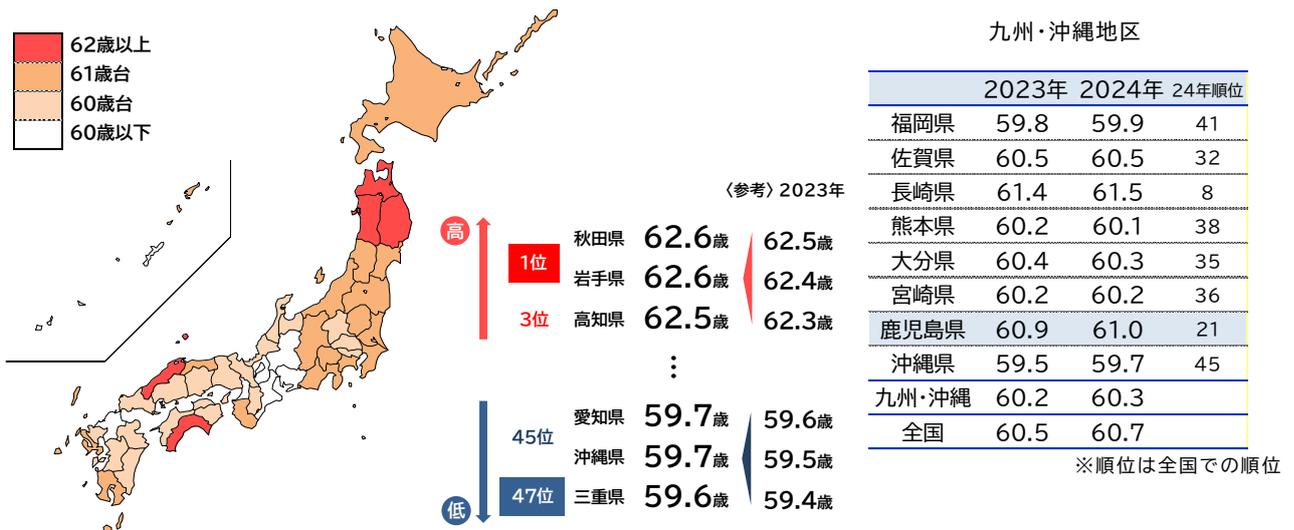
都道府県別でみると、秋田県(2023年比+0.1歳)と岩手県(同+0.2歳)が62.6歳で最も高く、東北地方の6県は全て全国平均(60.7歳)を上回った。

一方、最も低かったのは三重県の59.6歳(同+0.2歳)で、8年連続で最も低かった。その他、愛知県や沖縄県(いずれも59.7歳)など、60歳を下回ったのは7府県だった。総じて、都道府県別の社長平均年齢は「東高西低」の傾向が強い。

そのようななか、鹿児島県は全国で21位、九州・沖縄地区では長崎県の61.5歳に次いで2位だった。

なお、47都道府県のなかで社長平均年齢が前年から低下したのは、熊本県(60.1歳、同-0.1歳)と大分県(60.3歳、同-0.1歳)の2県のみだった。また、同横ばいは3県だった。

社長の平均年齢 都道府県別

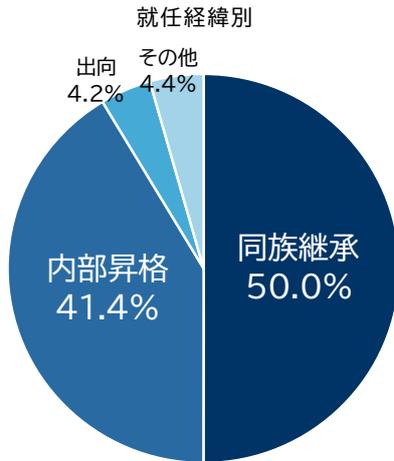


就任経緯、同族継承が最も多い 50.0%

交代した社長の就任経緯を分析すると、「同族継承」が50.0%で最も高く、「内部昇格」が41.4%、「出向」、「その他」はそれぞれ4%台だった。

就任経緯別に社長交代前後の平均年齢をみると、「同族継承」が交代前の平均年齢では71.0歳で最も高く、「出向」が62.5歳で最も低かった。交代後では「出向」が59.0歳で最も高く、「同族継承」が45.3歳で最も低かった。交代前と交代後の年齢差でみると、「同族継承」が25.7歳で最も開きが大きく、若返りが大幅に進んでいる。

社長交代企業・就任経緯別分析



就任経緯別・社長交代における前後の平均年齢

就任経緯	平均年齢		年齢差
	交代前	交代後	
同族継承	71.0	45.3	25.7
内部昇格	64.8	57.8	7.0
出向	62.5	59.0	3.5
その他	66.0	57.0	9.0
全体	68.8	51.1	17.7

※「全体」は2024年の社長交代企業を指す

高まる「社長の高齢リスク」、事業承継への早期着手が焦点

鹿児島県における社長の平均年齢は 61.0 歳となり、過去最高を更新した。社長が「50 歳以上」である企業の割合は 8 割を超えるなど、「社長の高齢化」が一層深刻になっている。業種や地域によっては、さらに高齢化が進行している実態も明らかとなった。直近では社長交代率が低水準にとどまるなかで、今後も社長の平均年齢は上昇し続けるだろう。

2019 年、中小企業庁は「2025 年までに 70 歳を超える中小企業・小規模事業者の経営者は約 245 万人となり、うち約半数の 127 万人が後継者未定¹」との試算を発表しているが、鈍化する社長交代率を背景に平均年齢の上昇に歯止めがかからない。今後は事業承継が進まずに事業継続を断念せざるを得ないケースがさらに増加する可能性がある。

こうした結果の一つとして、「経営者の病気・死亡」による倒産の増加がある²。2024 年には全国で 316 件判明し、過去最多の件数を記録した。社長が高齢になれば「不測の事態」が生じる可能性は高まり、企業経営にも重大な影響を及ぼしかねない。社長の高齢リスクが高まるなか、十分な期間を設けた事業承継の実施に向けた周到な準備が求められる。

「経営者の社長・病気」を主因とする倒産の件数(全国数値)



¹ 中小企業庁「中小企業・小規模事業者における M&A の現状と課題」P1 より

² 帝国データバンク「「経営者の病気、死亡」倒産動向調査」2025 年 2 月 10 日発表